

講師略歴

報告者（報告順）：

- ・ Joel Gittelsohn（ジョエル・ギテルソン氏）「米国のフードデザートにおける健康問題への介入と現状」
1960 年生まれ、ジョンズ・ホプキンス大学ブルームバーグ公衆衛生大学院
グローバル肥満予防センター 教授、博士（人類学）
健康に関する文化的、社会的現象について研究を行う人類学が専門である。食料品アクセスと健康問題についての研究に取り組む。発展途上国での母子の栄養改善の介入や、米国のフードデザート地域に住む低所得者層の肥満予防の介入研究の実績がある。
- ・ 高橋克也「我が国における食料品アクセス問題と住民の健康」
1964 年生まれ、農林水産政策研究所 主任研究官、博士（政策研究）
フードシステムが専門、近年は食料品アクセス問題の他、消費者行動をはじめ組織や地域のあり方などに関わる研究に携わっている。
- ・ 尾島俊之「健康の社会的決定要因と格差、その対策について」
1963 年生まれ、浜松医科大学医学部健康社会医学講座 教授、博士（医学）
健康社会医学を専門とするが、あらゆる健康課題に関して公衆衛生学や疫学的なアプローチを研究テーマに健康格差の解消を目指している。日本公衆衛生学会評議員、日本混合研究法学会、日本循環器予防学会等の理事を務める。
- ・ 山口美輪「食環境から見た住民の栄養と健康」
1983 年生まれ、東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻健康教育・社会学分野
特任研究員、博士（医学）
栄養疫学を専門とする。食生活と生活習慣病との関連などの疫学的研究、食事療法を通じた臨床研究、食環境の改善を通じた健康問題に取り組んでいる。徳島大学大学院医歯薬学研究部助教を経て現在に至る。
- ・ 住友達也「移動販売車によるアクセス支援対策の実態」
1957 年生まれ、移動スーパーとくし丸 社長
徳島県内にてタウン誌を立ち上げ、吉野川可動堰の住民運動代表などを経て 2012 年に移動スーパーとくし丸を創業。補助金に頼らない地域インフラとして、現在 27 都府県に約 100 台が展開中であり、2016 年末には全国で 300 台の拡大を目指している。